

# 教育に関する事務の点検・評価報告書

(令和5年度実施事業)

令和6年9月

白石市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条  
第1項の規定により別紙のとおり報告します。

令和6年9月5日

白石市教育委員会

教育長 半 沢 芳 典

# 令和5年度白石市教育方針と重点取組

## 白石市教育方針

教育基本法に基づき、本市の幼児・児童・生徒に生きる力（確かな学力・豊かな心・健やかな体）を育成するとともに、一人一人の生涯にわたる学習の充実と家庭や地域社会の教育力の高揚を図り、さらに伝統文化の尊重や誇りをもって生きる市民を育成し、「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし」の実現を期する。

## ○重点取組

### 基本方向1 夢や志をかなえる力の育成

- ① 全国学力・学習状況調査の平均正答率を全国平均以上にすることを旨とした学習指導の改善、充実と家庭学習改善及び非認知能力の育成
- ② 不登校特例校の充実と教育支援センターの有効活用
- ③ 不登校対策の充実（「行きたくなる学校づくり」の横展開）
- ④ 学校・幼稚園の特色や探究の対話（p4c）を生かした教育課程の編成と実施
- ⑤ 教育課程特例校（英語特区）を生かした英語教育の充実とコミュニケーション力の向上
- ⑥ SDGs（持続可能な開発目標）を達成しようとする児童生徒を育成するためのESD教育の推進
- ⑦ 1人1台端末（GIGAスクール）環境を生かした授業でのICT・AIドリル活用の充実及び家庭学習での積極的な利用
- ⑧ 英語教育、暗唱活動を取り入れた幼児教育の充実と預かり保育等の保育サービスの充実
- ⑨ 暗唱読本を取り入れた教育活動の充実

### 基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな体の育成

- ① 発達の段階と各学校の特色を生かした志教育の実践
- ② 保護者と連携した望ましい生活習慣の確立
- ③ 市の図書館と連携した読書活動の推進
- ④ 中学校における部活動の更なる改善

### **基本方向3 障がいのある子どもへのきめ細やかな教育の推進**

- ① 個の実態に応じた多様な学びの場（通常の学級、通級による指導、特別支援学級等）が選択できる環境の整備
- ② 教育支援委員会や関係機関、コーディネーターによるサポート体制の充実

### **基本方向4 信頼され魅力ある教育環境づくり**

- ① 子どもの安全安心確保のための学校安全の充実と安全・防災教育の確実な実施
- ② 「小中学校教育のあり方」答申を踏まえた教育環境の検討
- ③ 白石市立小中学校情報セキュリティ対策基準の遵守徹底

### **基本方向5 生涯にわたって成長するための学習・スポーツの支援**

- ① 生涯学習の推進とスポーツ環境の充実
- ② 地区公民館職員としてのスキルを高める研修機会等の充実
- ③ 「総合型地域スポーツクラブ」の活動支援
- ④ 市民のニーズに応える図書館サービス（電子図書館等）の工夫

### **基本方向6 地域みんなで未来を担う子どもを育む**

- ① 地域学校協働活動への理解と地域参画の促進
- ② 社会体験・自然体験・世代間交流を取り入れたプログラムの充実によるシビックプライドの醸成

### **基本方向7 歴史遺産・伝統文化の継承と活用の推進**

- ① 歴史遺産・伝統文化の記録化と活用及び情報発信の推進
- ② 博物館の早期建設に向けた資料収集、資料整理、教育普及活動の実施
- ③ 文化芸術団体・文化財関連団体の育成と活動支援

# 令和5年度 白石市教育施策

## 学校教育の充実

### 1 創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進

#### (1) 創意ある教育課程の編成

- 市内の特色や2学期制の利点を生かし、各学校の実態に即した教育課程の編成と実施に努める。
- 小・中学校の連携を図り、接続を意識した年間指導計画の作成に努める。
- 探究の対話（p4c）を生かした教育課程の編成と実践に努める。
- 児童・生徒に求められる資質・能力を地域社会と共有し、社会に開かれた教育課程の編成に努める。
- 1人1台端末環境を有効に活用した教育活動の充実に努める。
- 暗唱読本を取り入れた教育活動の充実に努める。

#### (2) 志教育の推進

- 教育活動のさまざまな場面で、人間として、社会人として、市民としての在り方や生き方、そして誇りを考えさせる場を意図的に設定する。
- 児童・生徒の能力・適性を多面的に把握し、適切な進路指導を進める。
- 発達段階に応じた勤労観や社会性を身に付けさせ、自らの生き方について主体的に探求していく力を伸ばす。

#### (3) 学習指導の充実

- 児童・生徒の個性や能力及び適性等を重視した学ぶ側に立つ授業づくりに努める。
- 児童・生徒に基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりに努める。
- 「白石市学力向上グランドデザイン」に則り、児童・生徒一人一人に確かな学力を定着させるPDCAサイクルの継続を図る。
- 学力・学習状況調査等を踏まえた授業改善、AIDリルを活用したつまずき解消の取組と個別最適化の実践を図る。
- 今日的な課題や地域、児童・生徒の実態を踏まえ、育てたい力を明確にした総合的な学習の時間の改善に努める。
- 教育課程特例校（英語特区）の指定を受け、本市独自の教育課程を生かした英語教育の充実を図る。
- 中学校区を単位とした小・中学校協働による授業づくりをとおして、知的好奇心を高め、学習意欲の高揚を図る。
- 課題意識をもって計画的・継続的に家庭学習に取り組むことができるように発達段階に応じた指導の工夫を図る。

#### (4) 学校体育・学校保健の充実

- 生涯にわたり健康で活力ある生活が送れるよう、健康の保持増進と体力・運動能力の向上を図る。
- 感染症等の情報に敏速に対応し、感染防止と罹患者への適切な指導に努める。

(5) 学校給食の充実と食育の推進

- 地場産品を食材とした学校給食の充実を図り、安全で安心な給食を提供する。
- 衛生管理水準の向上に努め、施設の整備や維持管理に取り組む。
- 栄養教諭・栄養職員による、学校給食をとおした指導を行い、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせる。
- 「食物アレルギー対応ガイドライン」に基づき、食物アレルギーを正しく理解し、学校全体で共通理解を図り、適切な対応を行う。

(6) 国際理解教育、姉妹都市交流の推進

- 外国語指導助手（ALT）の効果的活用や小・中学校及び高等学校との効果的連携をとおして、児童・生徒に国際的な視野と感覚及び英語による実践的コミュニケーション力を身に付けさせる。
- 国内外姉妹都市等との児童・生徒交流活動の推進を図り、相互理解と友好を深める。

(7) 情報教育の推進

- 発達段階に応じて、言語能力、情報活用能力（情報を主体的に収集・判断・処理・編集・創造・表現し、発信・伝達できる能力）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を教科横断的に育成する。
- 「第2期白石市学校教育情報化推進計画」に基づき、児童・生徒の情報活用能力を、各教科の特質に応じて適切な学習場面で育成する。
- 各教科において、コンピュータやインターネット等の情報手段を主体的に活用し、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力の育成を図る。

(8) 環境教育の推進

- 省エネルギー活動やリサイクル活動、自然愛護などの実践を計画的に行い、よりよい環境づくりに取り組む態度の育成に努める。
- 太陽光発電システムを利用して、省エネルギー、省CO<sub>2</sub>の効果や仕組み等を体感させ、環境教育の推進を図る。
- ユネスコスクール推進校として、世界共通の新しいものさしであるSDGs（持続可能な開発目標）の価値を全教育活動に取り入れるよう努める。

(9) 福祉・人権教育の推進

- 全教職員の共通理解のもとに福祉・人権教育推進のための校内体制を充実させ、家庭や地域・関連機関との連携を図る。
- 共生や福祉の心の大切さを理解させ、特別活動等をとおして態度や実践力の育成に努める。

(10) 文字・活字文化の振興

- 活字に触れる機会を増やし、児童・生徒の活字文化の理解と読書活動の推進を図る。

(11) ふるさと教育の推進

- 地域の文化財や史跡等を学ぶ活動をとおして、積極的に市内外の文化や伝統に親しむ児童・生徒を育てる。
- 学校教育の活動全体をとおして、白石市と地元地区を知り、ふるさとを愛し、その発展に寄与する児童・生徒を育てる。

## (12) 小規模校の充実

- 小原小・中学校においては小中一貫校のメリットを生かし、特色ある教育活動を展開する。
- 自然豊かな小規模校において、きめ細やかな個別指導による学力向上を図るとともに、地域の特色を生かした活動による豊かな人間性を養う。

## (13) 特別支援教育の充実

- 就学先を決定するにあたっては、就学相談等とおして様々な情報提供を行い、実態に応じた適切な教育支援に努める。
- 保・幼・小・中・支援校の連携をとおして支援の充実に努める。
- 特別支援教育コーディネーターを核として他の機関との連携のもと、相談活動をとおして特別な支援を必要とする児童・生徒の理解を深めるとともに、「すこやかファイル」の啓発と活用に努める。
- 障がいの種類や程度に応じた合理的配慮に努め、「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」の作成と実践、並びに教育のユニバーサルデザイン化を推進し、児童・生徒のさまざまな教育的ニーズに対応する。
- 障がいのある児童・生徒と障がいのない児童・生徒が共に学ぶ場や自らの可能性を最大限に伸ばすことのできる学びの場など、多様な学びの場の充実に努める。

## (14) 幼児教育の充実

- 一人一人の幼児が伸び伸びと活動し、豊かな体験が得られる環境をとおして行う教育に努め、幼児期の特性に応じた指導を推進する。
- 幼児を取り巻く環境の変化を踏まえ、家庭や地域と連携しながら集団活動の中で基本的な生活習慣の形成を図り、集団活動の中で善悪の判断を身に付けさせることにより、生きる力の基礎となる社会性や道徳性の芽生えを培う。
- 周囲の環境（物的環境、人的環境、自然環境）に主体的にかかわる体験をとおして、心豊かな幼児の育成を図る。
- 市内共通のアプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムの実践により、保・幼・小相互の円滑な接続を図る。
- 預かり保育の実施により、園児の心身の健全な発達を図るとともに保護者の子育てを支援する。

## 2 豊かな人間性を育む「心の教育」の推進

### (1) 道徳教育の推進

- 「特別の教科 道徳」において、多面的・多角的に深く考えたり、議論したりする授業展開の工夫に努める。
- 探究の対話（p4c）の理念を取り入れた授業により、安心をベースとした対話ができるようにする。
- 自然とのふれあいや社会奉仕、福祉などの豊かな体験活動を積極的に取り入れる。
- 美しいものや崇高なものに感動し、真・善・美に触れることのできる多様な体験活動を推進する。

### (2) 生徒指導の充実

- 児童・生徒の自己存在感や自己有用感を育み、問題行動やいじめの未然防止に努める。
- 支持的で創造的な学級集団をつくり、共感的な人間関係の育成に努める。

- 児童・生徒の自己選択・自己決定を促す授業づくりに努める。
- 児童・生徒がお互いの個性や多様性を認め合い、安心して学校生活を送れるような風土の醸成に努める。
- 児童・生徒の悩みや不安の早期発見に努め、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、教育支援センタースーパーバイザー並びに関係諸機関との連携を密にした相談・支援体制を充実させる。
- 善悪の判断を、機会を逃さず、適切かつ確実に指導する。

### (3) 情報モラルの育成

- 地域・家庭・学校が一体となって児童・生徒を「ネット犯罪」から守るために、地域・家庭等に対して、ネットを通じた有害情報や対策等について、様々な機会をとおして啓発を図る。
- 児童・生徒の発達段階及び情報機器の活用に応じて、情報社会で適正な活動を行うための基となる考え方と態度を、各教科の指導の中で情報活用能力の学習と合わせて指導する。

### (4) 誰一人取り残さない教育の推進

- 学校に足が向かない児童・生徒を支援するため、教育支援センターや不登校特例校、仙南けやき教室などの連携をとおして、学びの保障に努める。

## 3 学校・家庭・地域が連携した「開かれた学校づくり」の推進

### (1) 学校経営の充実

- 保護者や地域住民に対して学校の教育目標や方針などを説明しながら理解と協力を得、学校及び地域の自然・文化・人材を活かした学校づくりに努める。

### (2) 家庭教育の充実

- 「白石市子どもを育てるヒント集（小学校編・中学校編）」の活用、「家庭の日」や「ノーマディアデー」の促進、「青少年健全育成市民のつどい」への参加の奨励を図り、家庭教育の在り方に関する活動の機会を充実させる。
- 学力向上には、家庭教育も重要であることを呼びかけ、学校と家庭とが両輪となって取り組むよう働き掛ける。
- 安心感を持たせる家庭環境づくりや非認知能力（協調性、自制心、やり抜く力等）向上の必要性等について情報発信し、家庭の教育力を高めるよう働き掛ける。

### (3) 幼児教育の支援

- 幼稚園と保育園及び小学校（低学年）間の連携と相互理解を深めながら、子育て支援体制づくりを推進し、保・幼・小連携推進委員会の一層の充実を図る。
- アプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムの実施時期及び内容を見直し、その活用を図り、保・幼・小相互の円滑な接続を図る。

### (4) いじめ等防止対策の推進

- 「白石市いじめ防止基本方針」を徹底し、いじめの未然防止や問題行動の早期発見と早期対応に努めるとともに、児童・生徒の活動をとおして、いじめ根絶の意識を高める。
- 「白石市いじめ防止基本方針」で定めた7月と12月の「いじめ防止月間」に加え、「白石市いじめ防止大会」で採択された、「いじめゼロの日」（毎月10日）をとおして、いじめの未然防止やいじめ根絶の推進を図る。
- 幼児期における「いじめ」態様の早期把握に努め、適切な対応を図る。



#### (5) 安全教育の徹底

- 児童・生徒の安全を第一に考えた管理体制の整備に努める。
- 学校・家庭・地域が連携し、学校安全、防犯、防災、交通安全等の意識を高めるために自ら考える教育活動を取り入れる。
- 危険箇所や通学路などの安全点検を組織的、計画的に行う。特に東日本大震災を教訓とし災害時の対応等、防災教育の充実を図り、実効性のある防災体制づくりを行う。（「学校・地域防災連絡協議会」の活用）
- 登下校時の安全を図るため、スクールパトロール隊や通学路巡視員等と協力し、児童・生徒の安全確保の支援に努める。
- PSC（Police Student Cooperation）パトロールなどの取組を活かして、児童・生徒の地域安全への意識を高める。

### 4 学校力向上を図る研修の充実

#### (1) 「学校力」向上を図る研修の充実

- 管理職の自覚と覚悟を促し、児童・生徒管理、教職員管理、教育課程管理、施設整備管理、学校事務管理を強化する。
- 各校の実態に応じて、意識的なOJTを実施する。
- 組織マネジメントや危機管理等の研修を深め、組織として機能する学校づくりに努める。

#### (2) 「教師力」向上を図る研修の充実

- 学校の実態に応じて、学校毎に「教職への情熱」「授業力」「学級経営力」「生徒指導力」「総合的な人間力」等のバランスのとれた研修に努める。
- 白石市の課題解決に向けた具体的な研修に努める。

#### (3) 情報教育研修の充実

- 「第2期白石市学校教育情報化推進計画」に基づき、教職員のICT（情報や通信に関する技術の総称）活用指導力を向上させるための研修を充実させる。
- 情報活用能力と学力の関係を理解し、児童・生徒の知識・技術の確実な定着とともに、思考力・判断力・表現力を高めるための研修の充実を図る。
- 校務用コンピュータを活用した校務の効率化を進めるとともに、情報管理の徹底を図る。
- 1人1台端末等を使用した授業づくりのため、指導主事を有効に活用して、教員の資質向上を図る。

#### (4) 心身の健康管理

- 市民の期待と信頼に応え、創意と活力に満ちた教育活動が展開できるよう、文部科学省報告の「学校現場における業務改善のためのガイドライン」及び「学校現場における業務の適正化に向けて」を活用し、教職員の健康増進と福利厚生の実施に努める。

## 社会教育の充実

### 1 社会教育推進体制の充実

#### (1) 市民の生涯の成長を促す社会教育の推進

- 公民館等の社会教育施設を拠点に、いつでも誰でも気軽に集い学び合うことや、個人の自己実

現に向けた学習を支援する。

- 各種団体や地域住民等との連携強化を図り、市民の学習成果が地域等で生かせるような場のコーディネートを行う。
- 人口減少や少子高齢化の中でも、地域が話し合いと学び合いを重ねてより良い地域づくりを目指す力の向上を目指す。
- コロナ禍などにおける新たな学習機会として、様々な世代がリモートで繋がる機会や、そのためのスキルを学ぶ機会を設ける。

## (2) 地区公民館の社会教育の推進

- 指定管理者制度により地域主導で運営されている地区公民館においても、市民の生涯を通じた成長への要求に応えられるよう、地域の特色を生かした公民館事業や社会教育の推進、共同学習を支援する。
- 公民館職員としての専門スキルの向上を支援するため、研修機会の確保、情報提供、地区公民館同士の定期的な情報交換の場を設ける。
- 市職員が研修会等に積極的に参加するなどして専門スキルを高め、また、地域に出向いて地域の特性や強みを理解しながら、地区公民館事業運営への指導・助言を行う。

## (3) 地域学校協働活動の推進

- 地域学校協働本部を中心に、地域学校協働活動推進員、協働教育担当者、地域の方々などを対象にした研修会の開催や情報共有の機会を設け、活動への理解の促進と家庭・地域・学校が一体となって取り組みの充実を図る。
- 学校支援を通して、充実した学校教育を支援する。
- 放課後子ども教室を実施し、子どもたちの安全・安心な放課後の居場所の確保と異年齢交流による子どもの自主性と創造性を育む。
- 地域学校協働活動の取り組みを通して、地域住民や各種団体の主体性や自主性を育み、地域全体の教育力の向上と地域の活性化を図る。
- 家庭教育支援チームなどと連携し、宮城県版「親の学びのプログラム」を活用した出前講座の実施等による家庭教育事業を推進し、全ての親が安心して子育てや家庭教育が行えるように支援する。

## (4) 青少年活動の推進

- 社会体験・自然体験・世代間交流を取り入れた充実したプログラムによるわんぱく教室を開催することにより、子どもたちの健全な育成と、ジュニア・リーダーの加入に繋げる。
- 次世代を担う青少年がたくましく思いやりのある人間に成長することを支援し、将来の担い手として、地域をつくる社会の一員になることを目指して、ジュニア・リーダーの育成と活用を推進する。
- 未来を担う子どもたちが、ふるさと「白石」に誇りと愛着の醸成ができるよう、楽しみながら地域に興味や関心が持てる機会の拡充に努める。

## (5) 読書活動の推進

- 家庭・学校・地域・図書館等が連携しながら、児童・生徒が読書に親しむ機運を高めるとともに、読書をとおして心豊かな生活ができるように施策や環境の整備に努める。

# 2 文化芸術活動の振興と歴史遺産・伝統文化の継承・活用体制の充実

## (1) 文化芸術活動の推進

- 地域の歴史・風土等を反映した個性豊かなまちづくりを推進するため、市民の多様な文化芸術活動や普及活動を支援する。
- 優れた文化芸術に触れる機会を確保し、古典芸能伝承の館碧水園など文化施設の積極的活用を推進する。

#### (2) 歴史遺産・伝統文化の継承と活用の推進

- 歴史遺産・伝統文化の散逸と滅失を防ぎ、広く市民の理解を得るよう啓発するため、資料を記録化し、各種媒体を用いて情報発信をする。
- 歴史遺産や伝統文化を展示・収集・保管する博物館の早期建設に向け、資料の所在調査や普及活動を実施する。
- 他の機関・団体等と連携しながら、歴史遺産等の価値を理解し、魅力を発信する人材を育成する。

### 3 生涯にわたるスポーツ活動の推進

#### (1) 生涯スポーツの推進

- いつまでも健康で明るく活気に満ちた生活を送ることができる「市民総スポーツ社会」の実現に向けて、「だれでも・いつでも・どこでも・いつまでも」気軽にスポーツを楽しむことができるスポーツ環境の充実に努める。
- スポーツ推進委員や学校体育と連携し、各種大会やスポーツ教室等の開催を通じ、地域や学校に根ざしたコミュニティスポーツを積極的に推進し、市民の健康増進と体力・運動能力の向上を図る。

#### (2) 総合型地域スポーツクラブの活動支援

- 地域住民のスポーツ活動をささえ、スポーツを通じた地域コミュニティを構築するための活動拠点となる「総合型地域スポーツクラブ」の活動支援を行う。

#### (3) スポーツ団体及び指導者の育成強化とスポーツ人口の拡大

- スポーツ協会やスポーツ少年団を中心とするスポーツ団体及び指導者の育成強化に努め、スポーツ人口の拡大を図る。

### 4 図書館サービスの充実

- 地域の情報拠点として、基本的サービスである資料提供サービスをはじめ情報サービス、課題解決支援サービスの充実を図る。
- 郷土資料と行政資料を収集し、市民の郷土史研究や地域課題の解決に資する。
- 学校図書館との連携を深め、図書館サービスの効果的な活用を推進する。
- 「第四次白石市子ども読書活動推進計画」を実践する。

## 教育環境の整備

### 1 施設設備や教具等の充実と効果的な活用

#### (1) 施設設備の整備

- 安全な施設設備の整備を図る。

#### (2) 施設設備の適正管理

- さまざまな災害に備えた施設設備の充実に努める。
- 環境負荷の軽減に配慮した施設設備の適正な管理を図る。

(3) 子どもの特性に合わせた教育環境の整備

- ICT機器の利活用のための教育環境の整備を図る。
- 障がいのある児童・生徒の実態を考慮した施設・設備の整備を図る。

(4) 緑化・美化運動による教育環境の整備

- 各学校の環境を活かした個性ある緑化・美化による教育環境の整備促進を図る。

## 2 危機管理体制の強化

(1) 危機管理体制の強化と学校事故再発防止に向けた安全教育の徹底

- 東日本大震災や令和元年東日本台風を教訓として地域の実情に沿って見直した学校安全マニュアルにより、防災教育を強化する。
- 不審者侵入や自然災害等に対応した児童・生徒の安全確保と個人情報管理等の危機管理体制の強化を図る。
- 各学校の状況に応じた避難訓練と日常的な指導により、児童・生徒の危機予測能力及び危機回避能力を養う。
- 「しろいし安心メール」を活用し、児童・生徒の安全や安心に努める。

(2) 情報教育に係る設備等の整備充実

- 学校コンピュータ管理基準の徹底及び個人情報の管理に努める。
- 1人1台端末、教師用端末及び関連機器について、白石市立小中学校情報セキュリティ対策基準に基づいた保管及び管理を徹底する。
- 学校ホームページの積極的な運用を図り、地域及び家庭に学校の取り組みや子どもたちの様子について伝えるよう努める。

基本事業	教育環境の整備	担当課	学校管理課施設係
事業名	学校施設環境整備事業		
重点施策 (白石市の教育より)	1-(1)(2) 施設設備や教具等の充実と効果的な活用		
事業の目的・目標	より良い環境で教育を受けることができるよう、学校施設及び設備の適切な維持管理を行い教育環境の充実を図る。		
1. 令和5年度予算額	13,645千円	2. 令和4年度決算額	26,382千円
3. 令和5年度の 事業内容	<p>○児童生徒の安全安心を最優先に考え、施設小・中学校及び幼稚園の定期的な保守点検及び修繕等により、維持管理を行う。          (当初予算計上の資料として、各学校、幼稚園に前年度夏に施設の修繕要望調査を行っている。限られた財源であるので、必要性・緊急性を判断しながら業者から見積書を徴収し、当初予算に計上している。また、随時発生する修繕要望についても、必要性・緊急性を勘案しながら、補正予算により対応している。)</p> <p>○令和3年4月27日に発生した白石第一小学校防球ネット支柱折損死傷事故を受けて、再発防止に取り組む。</p> <p>○令和4年3月16日の震災の影響で数多く生じた小規模な不具合箇所を引き続き修繕する。</p> <p>○令和5年4月1日開校の白石南小中学校について、校舎は長期間未使用だったため、使用後の状況を注視し、不具合が判明した場合、迅速に対応する。</p>		
4. 事業の実績	<p>○当初予算(修繕費)にて167件の修繕を行い、補正予算により必要性・緊急性などを勘案して15件修繕を行った。(当初予算のうち、教具等の簡易な修繕は、各学校に配当している予算にて対応)</p> <p>○白石第一小学校防球ネット支柱折損死傷事故を受けて、定期的に専門的な安全点検を行う計画を作成し、本年度より一般社団法人宮城県建築士会白石刈田支部の協力による点検や市技術職員による点検を行った。</p>		
5. 事業の成果・ 課題等	<p><b>【成果】</b></p> <p>○必要性・緊急性を勘案しての修繕については、全て完了することができた(消防設備定期点検で判明した消防設備修繕等は補正予算で対応)。</p> <p>○学校施設等安全点検の計画を作成し、専門的な安全点検を行うとともに、市教委と教職員が合同で安全点検を行い、安全点検方法について適切かつ具体的な知識を身に付け、各学校における安全点検の充実を図った。</p> <p>○白石南小中学校校舎は、開校後判明した設備等の不具合を適時修繕し、使用に支障ないよう対応した。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>施設設備の経年劣化による老朽化が進んでいる。屋根の雨漏りや水道管の漏水、設備機器などの故障が発生した場合、出来る限り速やかに対応はしているが、予防的な修繕にまで十分には手が回らない。急激に少子化が進んでいる現状を踏まえ、今後の学校教育、保育について検討段階にあるが、児童生徒の安全安心を最優先に考え、「白石市学校教育施設個別施設計画(令和3年3月策定)」を考慮しつつ施設の維持管理や長寿命化を図って行く必要がある。</p>		
6. 内部評価	<b>B</b>	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>児童生徒の安全安心を最優先に考え、限られた予算の中で必要性や緊急性を勘案して予定していた事業をすべて完了できたことは「白石市学校教育施設個別施設計画」を考慮しながら実施されたことと思います。特に、令和4年に発生した震災の影響で数多く生じた不具合箇所の修繕は大変困難な取組であったと推察いたします。白石南小中学校の開校に向けて支障がないよう、教育環境の整備が行われたことは素晴らしいと思います。これまで同様、児童生徒の安全安心は特に大切なことと思いますので引き続き進めていただければと思います。</p>		

基本事業	学校教育の充実	担当課	学校管理課
事業名	学力向上プロジェクト事業		
重点施策 (白石市の教育より)	創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進 (3)学習指導の充実		
事業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学力向上を図り、本市の将来を担う子どもたちの「生きる力」を高めることを目指す。</li> <li>・学力向上グランドデザインを踏まえた実践を通して、児童・生徒の学力の向上を図る。</li> <li>・学力・学習状況調査等を踏まえ、その課題を明確にして学習指導等に生かす。</li> </ul>		
1. 令和5年度予算額	9,684千円	2. 令和4年度決算額	8,639千円
3. 令和5年度の事業内容	市独自の学力調査を実施し指導改善に生かしていくほか、令和元年度から3年間にわたり受託した宮城県の「学力向上マネジメント支援事業」を継続・発展させた本市「学力向上グランドデザイン」の取組を基に、学力向上におけるPDCAサイクルを推進し、学力向上を図っていく。		
4. 事業の実績	<p>【白石市学力調査の実施】</p> <p>埼玉県との共同実施による白石市学力・学習状況調査を5月に実施したほか、12月には標準学力調査を小・中学校全学年において実施した。</p> <p>【教員研修会の実施】</p> <p>5月12日：学力向上に係る管理職研修会          11月13日：教育アドバイザーによる学力向上研修会①(教頭、学力向上推進委員対象)          11月14日・15・16日：教育アドバイザーによる学力向上研修会②(14、16日：小学校、15日：中学校)          10月20日、11月17日、12月6日：算数科学力向上研修会(一小、小規模小学校、中規模小学校)          11月21日：管理職研修会(非認知能力と学力の関係)          ※9～12月：中学校区授業参観研修会(市内全小・中学校1回ずつ実施)          ※通年：白石市教育委員会指導主事派遣事業(要請があった学校対象)          ※年5回：学力向上推進委員会</p> <p>【各種検定補助、中学校校内実力テスト実施に対する補助】</p> <p>・漢字検定：2回(のべ343人)、数学検定：2回(のべ175人)、英語検定：3回(のべ263人)          ・中学校実力テスト(1年：2回、2年：3回、3年：5回)</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力量学習状況調査の結果は、改善傾向にあり、県平均比較では、中学国語は同等、それ以外の教科は全て上回る結果であった。</li> <li>・これまでの取組から、各校において自主的、積極的な取組内容の工夫改善、定着が見られ、その主体性が学力の向上・改善につながったと考える。特に、結果分析を基に各校での学習指導の改善及び児童生徒一人一人の「つまずき解消」の手立ての構築・実施など、学力向上におけるR-PDCAサイクルが確実に実施されていた(教師意識、学力向上推進委員会議より)。</li> <li>・非認知能力と学力の関係について研修を通して全市教員の理解が進み、その視点で学力向上を推進していくという意識の高まりは成果と捉えている。特に、学力調査の結果から学力の伸びと非認知能力の変容を基に、授業改善及び個に応じた指導の充実につなげることができた。</li> <li>・年度当初に学力向上に係る管理職研修の実施により、全市内小中学校が共通理解のもと取組が推進されたことは学力向上の一要因と考える。</li> <li>・過去に受検している児童生徒が再度、受検に申し込むことが認められ、このことは学びへの意欲、挑戦意欲の向上と捉えられる。また、保護者の経済的負担の軽減にもつながった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学力調査結果と分析及び令和2年度(中学校は令和3年度)より完全実施となった学習指導要領、令和の日本型学校教育を踏まえた授業(個別最適な学び、協働的な学び、ICTの活用等)を一層展開していくことが必要であり、これまでの授業に対する児童生徒・教師の意識や授業内容について大きく転換を図ることを主たる課題・改善としていく。</li> <li>・学力向上に相関すると示されている非認知能力面の授業内での具体的対策を更に充実させ、自己効力感、学びに向かう姿勢等の向上を図り、学力向上を推進していく。</li> </ul>		
6. 内部評価	<b>B</b>	A	目標を上回って達成した
B		目標をほぼ達成した	
C		目標をやや下回った	
D		目標を下回った	
7. 外部評価	<p>「学力向上マネジメント支援事業」で得られた成果を活かし、R-PDCAサイクルが確実に実施されています。そのことで児童生徒の「つまずき解消」に向けた実践等が各学校で定着されていることを感じることができます。市独自の学力調査、中学校校内実力テストへの補助、そしてAIドリルの導入は、他の市町で行われていないものであり、限られた予算を児童生徒の学力の伸びや自分の自己実現のために使われていることは素晴らしいことです。認知能力だけではなく非認知能力の向上にも視点を持ち、バランスの良い教育が実践され、認知能力と非認知能力が相互作用しながら高め合い、児童生徒の将来の成功を高めていくものとして、人間形成の大切な部分を育成していると思います。課題の中に、学習指導要領、令和の日本型学校教育を踏まえた授業を一層展開していくこととありますが、すべての教員が現在求められている授業をしっかりと理解し、授業の転換を積極的に図り実践できるよう支援をお願いいたします。</p>		

基本事業	学校教育の充実	担当課	学校管理課
事業名	国際理解教育推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進		
事業の目的・目標	児童生徒に国際的な視野と感覚及び英語による実践的コミュニケーション力を身に付けさせる。		
1. 令和5年度予算額	28,162千円	2. 令和4年度決算額	27,281千円
3. 令和5年度の事業内容	令和3年度より文部科学省の教育課程特例校(通称:英語特区)の指定を受け、特別な教育課程の編成を行い、小学校低学年での外国語活動及び中学校1・2年生でのコミュニケーションを重視した活動である「しろいしングリッシュ」を実施している。 令和5年度は、令和4年度と同様に派遣会社より5名、市直接雇用1名の6名体制で市内全小・中学校及び幼稚園・保育園(市立・私立)にALTを派遣し、外国語・国際理解教育の強化を図った。		
4. 事業の実績	各学校のALT年間配置日数(指導時数)【令和4年度】 白一小153(496) 白二小162(532) 越河小43(214) 大平小77(220) 大鷹沢小78(256) 白川小67(217) 福岡小54(204) 深谷小47(149) 小原小中83(269) 白石中203(433) 福岡中99(190) 東中208(705) 第二幼20(40) 私立幼稚園・(市立・私立)保育園26(44) 合計1,320(3,969)		
	各学校のALT年間配置日数(指導時数)【令和5年度】 白一小167(489) 白二小157(528) 越河小45(202) 大平小78(248) 大鷹沢小69(241) 白川小71(218) 福岡小51(211) 深谷小45(148) 小原小中84(285) 白石中209(666) 福岡中115(188) 東中205(718) 南小中学校3(8) 第二幼20(40) 私立幼稚園(市立・私立)保育園25(27) 合計1,344(4,217)		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 教育課程特例校として、ALT6名体制で学校等への派遣を実施したことにより、対応時数が増加し、ALTを授業だけではなく学校行事等で安定的・効果的に活用する機会を増やすことができた。特に、深谷小学校においては、全校児童を対象としたクリスマスイベントをALT派遣会社が主催し、異文化交流に対する理解を深めるとともに英語によるコミュニケーション力を高めることに寄与した。 また、幼稚園や保育園へのALT派遣も計画的かつ積極的に実施し、小学校就学前からの途切れない英語教育の推進を図ることができた。 R5. 12月の市学力調査の中学校英語では、学年が上がるにつれ全国平均との差が縮まり、中学3年は全国平均と同等(2校)または全国平均以上(2校)となるなど、その成果が認められる結果であった。</p> <p>【課題】 既存の外国語活動に加えて、教育課程特例校としての取り組みをより一層推進するため、学校間の情報共有や、市教委・学校等・派遣会社との調整・連携を更に強化するなど、外国語・国際理解教育の充実改善に向けた検討を今後も計画的に進めていく必要がある。</p>		
6. 内部評価	A	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	グローバル化が進む中、現在の児童生徒達が生きる時代は、白石市を含めた自国だけではなく、世界中の人々と交流・協力をしながら生きていかなければならない時代であり、世界の誰とでもコミュニケーションを図る能力が求められます。まさに、白石市の英語特区は、時代を先取りした取組であり、幼少期より英語に触れる機会を得ること等、英語によるコミュニケーション能力を育むことができているものと思います。また、これらのスキルが新たなスキルを生み、中学校では英語を学ぶ意欲にも繋がっているものと思います。さらに、ALTを6名体制のまま維持していることも素晴らしいことと思います。		

基本事業	生徒指導関係事業	担当課	学校管理課
事業名	生徒指導関係事業		
重点施策 (白石市の教育より)	豊かな人間性を育む「心の教育」の推進 (2)生徒指導の充実 学校・家庭・地域が連携した「開かれた学校づくり」の推進 (4)いじめ等防止対策の推進		
事業の目的・目標	関係機関との連携による相談・支援体制を充実させ、不登校やいじめ、問題行動などの未然防止、早期発見・解決を図る。		
1. 令和5年度予算額	20,875千円	2. 令和4年度決算額	19,492千円
3. 令和5年度の事業内容	学びの多様化学校(白石きぼう学園)、白石市教育支援センター(子どもの心のケアハウス)、白石市青少年相談センター、仙南けやき教室、スクールソーシャルワーカー(SSW)、スクールカウンセラー(SC)の運用と活用。学び支援教室の運営。みやぎ「魅力ある・行きたくなる」学校づくり推進事業の実施。いじめ問題対策連絡協議会、いじめ防止大会の開催。		
4. 事業の実績	【令和4年度】 ケアハウス: 支援児童生徒実人数195名(学校復帰児童生徒実数5名)、保護者支援総数241名 相談センター: 相談件数32件、街頭巡回指導(声がけ運動)件数50件(146名) 仙南けやき教室: 通所者6名、相談件数98件 スクールソーシャルワーカー: 支援児童生徒数30名、訪問活動回数213回 スクールカウンセラー: 相談件数 小学校児童177件、教員46件、保護者378件 相談件数 中学校生徒263件、教員13件、保護者162件 学び支援教室: 利用者数 白石二小4名、白石中19名		
	【令和5年度】 教育支援センター: 支援児童生徒実人数330名(小学生187名、中学生143名) (学校復帰5名、支援センター通所27名、けやき教室通所2名) 相談センター: 相談件数12件、街頭巡回指導(声がけ運動)件数69件(251名) 仙南けやき教室: 通所者9名、相談件数88件 スクールソーシャルワーカー: 支援児童生徒数52名、訪問活動回数228回 スクールカウンセラー: 相談件数 小学校児童234件、教員214件、保護者365件 相談件数 中学校生徒259件、教員41件、保護者177件 学び支援教室: 利用者数 白石二小12名、白石中13名		
5. 事業の成果・課題等	【成果】 各機関への相談件数や支援者数は増加傾向にあり、困難さや問題を抱える児童生徒・保護者へ積極的に関わっていることと表れであると考え。これまで同様、SSWの活動拠点を白石市教育支援センター(子どもの心のケアハウス)に置き、連携を図りながら、学校や家庭の相談・要請に柔軟に対応できている。また、学校や関係機関等とより強固な連携を図りながら児童生徒や保護者への支援を行った。令和5年度は学びの多様化学校「白石きぼう学園」を開校し、学びの場の選択肢を増やし、不登校支援の充実を図るとともに、県の事業である「行きたくなる魅力ある学校づくり」事業を推進した。白石きぼう学園の中学校卒業生8名全員が高校進学をし、また、令和5年度の本市の中学校全体の不登校数が減少したことは、これまでの取組の大きな成果と捉えている。 「いじめ防止大会」は、多くの児童生徒が参加できる良さを生かしてオンラインで実施し、各学校の主体的・積極的な取り組みの情報交換ができた。		
6. 内部評価	A	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	学びの多様化学校「白石きぼう学園」の開校は大変素晴らしいことであり、これまでの取組により、花開いたものと思っております。また、開校までの準備をされてきた教育委員会の皆様に敬意を表します。白石市教育支援センターや学び支援教室を含め、登校できない・教室には入れない児童生徒の学びの場の選択肢を増やして、支援の充実により一層取り組まれていることは、一人一人の児童生徒が大切にされていることを実感できるものと思っております。教育支援センターの支援体制や連携の強化等、関係する施設の充実を図ることが課題にありますが、これまで同様に悩む児童生徒並びに保護者に対してのよりよい支援策を探っていただきますようお願いいたします。また、「魅力ある・行きたくなる学校づくり」は、不登校対策に非常に重要なポイントを占めると実感しました。		



基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課生涯学習係
事業名	地域学校協働活動推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	協働教育の推進 2-(6)-①②		
事業の目的・目標	地域と学校が連携、協働して、子ども達の成長を支え、地域を創造する活動を推進する。		
1. 令和5年度予算額	5,358千円	2. 令和4年度決算額	3,954千円
3. 令和5年度の事業内容	<p>家庭教育支援活動・学校教育支援活動・地域活動及び放課後子ども教室を中心とした事業の推進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭教育支援                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・市主催「親の学びプログラム」出前講座の開催</li> </ul> </li> <li>○学校教育支援                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援ボランティア派遣・職場体験学習の支援・各種研修会の開催・広報誌の発行</li> </ul> </li> <li>○地域活動支援                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動「わんぱく教室」の開催・白石市生涯学習フェスティバル事業の実施・「家庭の日」推進の取り組み・ジュニアリーダー研修及び派遣事業</li> </ul> </li> <li>○放課後子ども教室                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・越河小学校・第一小学校・第二小学校で実施、第一小及び第二小については平成30年度より開設、児童クラブとの連携型及び校内交流型で運営</li> </ul> </li> </ul>		
4. 事業の実績	<p>・ボランティア派遣学校数: 小学校及び中学校計15校(13校)、市内幼稚園1園(市内幼稚園1園)</p> <p>・年間活動日数: 第一小245日(208日)、第二小47日(233日)、越河小21日(44日)、大平小24日(14日)、大鷹沢小63日(216日)、白川小26日(21日)、福岡小51日(241日)、深谷小33日(32日)、小原小40日(51日)、白石南小9日(0日)白石中0日(74日)、福岡中31日(42日)、小原中3日(21日)、東中17日(3日)、白石南中9日(0日)、第二幼稚園8日(9日)</p> <p>・家庭教育学習講座の実施数: 4校(5校)</p> <p>※()の数値は昨年度</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】</p> <p>標記事業は平成24年度より国の補助事業である「協働教育プラットフォーム事業」として5年間実施し、平成30年度より「地域学校協働活動」として国の補助事業を活用し実施している。これまでの実績を踏まえ、地域活動支援では事業の周知も計られ参加者が増えている。学校教育支援ではボランティアの人手はまだまだ必要ではあるが、校外活動へのボランティア派遣依頼も増え、多くの場面で活動していただいております、放課後子ども教室・家庭教育支援は継続して実施できた。</p> <p>【課題】</p> <p>全国的な傾向ではあるが、少子化が進み、学校の統廃合により特色ある教育活動・伝統文化の継承が困難となり、地域コミュニティの衰退も懸念される現状である。今後も地域まちづくりの核として活動しているまちづくり協議会と協力して、地域住民と子ども達とその保護者を結びつける活動を伝統文化の継承等の事業と結びつける等の工夫をして事業の実施を行い、地域コミュニティの再構築を目指しながら今後も進めていきたい。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>地域の中にある人、団体、企業が参画して地域全体で子供達の成長を支えていただいているということを実感しています。やはり、「地域学校協働活動」として様々な事業が推進されてきたお陰だと思います。子供達の教育は、家庭教育力だけでは足りない状況だと思いますので、これからもより一層推進していただきますようお願いいたします。少子化、学校の統合と様々な課題は出てくると思いますが、その時代に合ったものを模索し、課題に書かれてあるように地域コミュニティの再構築を目指していただければと思います。また、コロナ禍の時は活動も難しかったと思いますが、収まりつつありますので、子供達を健全に育成していくことを、引き続き進めてほしいと思います。</p>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課文化財係
事業名	史跡環境整備事業、市内遺跡発掘調査等事業		
重点施策 (白石市の教育より)	芸術文化活動の振興と文化財保護思想の普及及び保護体制の充実 2-(7)-②		
事業の目的・目標	<p>市内に所在する文化財に説明板・標柱を設置し、地域の方や来訪者にその存在を周知するとともに、地域の文化財に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>遺跡の発掘調査を実施することによりその状況を把握し、各種開発事業による遺跡の破壊や滅失を防ぎ、将来へ継承する。</p>		
1. 令和5年度予算額	13,858千円	2. 令和4年度決算額	30,491千円
3. 令和5年度の事業内容	<p>史跡環境整備事業では、白石温麺が文化庁の百年フードに認定されたことを受け、白石の伝統産業でもある白石温麺について、百年フード認定と温麺の歴史について解説した看板を白石蔵王駅に設置した。</p> <p>市内遺跡発掘調査等事業では、住宅建築や太陽光発電設備設置事業などの予定地内において遺跡の有無を確認するための発掘調査を実施した。そのほか、斎川にある古墳の測量調査等を実施した。</p>		
4. 事業の実績	(令和5年度)文化財説明板および標柱の新設・塗り替え1件、発掘調査29件 (令和4年度)文化財説明板および標柱の新設・塗り替え2件、発掘調査22件		
5. 事業の成果・課題等	<p><b>【成果】</b></p> <p>史跡環境整備事業においては、説明板の新設により身近な地域に様々な文化遺産があることを周知することができ、その理解促進に役立った。</p> <p>市内遺跡発掘調査等事業では、発掘調査によって遺跡の状態が把握され、開発事業者と遺跡保護に向けて円滑な調整ができた。また、開発事業による遺跡への影響を最小限に留めることができた。</p> <p>特筆すべき点としては、本市が重要遺跡の内容解明のために発掘調査を実施し、文化財行政上貴重な取り組みとなった。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>市内に所在する文化財説明板は約300箇所あり、昭和50年代に設置した説明板は経年劣化し、定期的な塗り替え・建て替えが必要である。また、看板が設置されている文化財そのものの状況把握も課題である。</p> <p>市内遺跡発掘調査等事業は、スマートICや道の駅など大規模開発事業が複数予定されているが、対応できる職員の十分な確保が大きな課題である。</p>		
6. 内部評価	<b>B</b>	A	目標を上回って達成した
B		目標をほぼ達成した	
C		目標をやや下回った	
D		目標を下回った	
7. 外部評価	<p>白石市は様々な歴史の転換期に舞台となった地域だと思っています。これらの誇るべき先人の遺業や豊富な遺跡を大切に守り、文化財に理解を深めるために看板設置など様々な取組がなされており、ありがたいという思いになります。課題に対応できる職員の十分な確保が課題となっているようですが、歴史の町として誇れる白石市ですので、頑張っていたきたいと思っています。素晴らしい文化財を後世に伝えるためにも、丁寧に進めていただき今後もよろしくお願いします。</p>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課スポーツ振興係
事業名	生涯スポーツ推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	3 生涯にわたるスポーツ活動の推進		
事業の目的・目標	いつまでも健康で明るく活気に満ちた生活を送ることができる「市民総スポーツ社会」の実現に向けて、「だれでも・いつでも・どこでも・いつまでも」気軽にスポーツを楽しむことができるスポーツ環境の充実を図る。		
1. 令和5年度予算額	7,580千円	2. 令和4年度決算額	5,810千円
3. 令和5年度の事業内容	<p>○誰でも、気軽に楽しむことができる「ニュースポーツ」の普及促進を図り、参加者相互のコミュニケーション及び体力づくりを図ることを目的に、学校体育や地区公民館、社会福祉協議会などと連携し、年間を通じニュースポーツ移動教室を開催した。</p> <p>○スポーツ推進委員と連携し、ふるさと球技大会や市民綱引き大会、しろいし蔵王高原マラソン大会を始めとした各種スポーツ大会を開催した。</p> <p>○白石市スポーツセンター管理運営業務(白石市スポーツ協会事業)及び学校施設開放業務</p> <p>○白石市グラウンド・ゴルフ場【若林弁天パーク】を活用した市民グラウンド・ゴルフ大会を開催し、生涯スポーツを通じた市民の健康維持・増進と地域活性化を図った。</p>		
4. 事業の実績	<p>○ニュースポーツ移動教室 (R5実績)計11回開催(うち小学校7回、地区公民館等4回)、参加者(延べ)562名</p> <p>○各種スポーツ大会の開催 市民グラウンドゴルフ大会、白石市ふるさと球技大会、しろいし蔵王高原マラソン大会、市民体育大会、市民・小学生シャフルボード大会、市民綱引き大会</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 ニュースポーツ移動教室の開催により、スポーツが苦手な子どもたちにとっても気軽に身体を動かすことの楽しさを知ってもらい良い機会となった。また、高齢者にとっても無理なく気軽に楽しむことができるスポーツであることから、事業目的である参加者相互のコミュニケーション及び体力づくりに資することが出来たと思われる。</p> <p>【課題】 少子高齢化時代となり、スポーツをする子どもの数が減少、スポーツ少年団(チーム)の存続も危ぶまれてきている。この「ニュースポーツ移動教室」をきっかけとして多くの子どもたちにスポーツに対する興味を持ってもらうため、引き続き学校体育と連携して取り組んでいきたい。また、地域にとっても、コミュニティづくりの一環として、また健康寿命の延伸・医療費の抑制という効果も期待できることから、引き続き地区公民館や社会福祉協議会と連携してニュースポーツの普及促進に努めていきたい。さらに、ニュースポーツを継続して取り組める場所を含めた環境の整備を図っていきたい。併せて、グラウンド・ゴルフ場の利用促進を図っていきたい。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>ニュースポーツ移動教室や各種スポーツ大会の開催など、数多くのことが取り生まれ、生涯にわたるスポーツ活動の推進が行われていることが分かります。少子高齢化時代となり、学校の部活動のあり方も変わりつつある時代を迎えているからこそ、ニュースポーツ等に子供の頃から親しむことにより、スポーツに対する興味を持たせることが必要だと思います。成果の中に参加者相互のコミュニケーションに資することができたとあり、新たな地域再生の一助にもなりえると思いました。課題の中に、グラウンドゴルフ場の利用促進がありました。子どもから高齢者まで簡単にできる楽しいスポーツですのでどんどん広めていただければと思います。</p>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課総務係
事業名	中央公民館利用事業(貸館業務)		
重点施策 (白石市の教育より)	社会教育推進体制の充実 2-(1)-①		
事業の目的・目標	市民の自主的、主体的な学習活動の推進に努める。		
1. 令和5年度予算額	千円	2. 令和4年度決算額	千円
3. 令和5年度の事業内容	<p>市民の方々の自由な学習活動を促進し、自主的な活動を活発なものとしていくために、地域の活動拠点としての集会の場の確保、学習情報等の提供を行うなど、グループ・団体の活動の支援を行った。</p> <p>また、貸館業務のほかにも、地域における課題、市民の方々の学習要求を的確に把握して、継続的、または計画的に教室や講座などの学習機会を企画・実施し、終了後の自主的活動サークル化への助言等も行っている。</p>		
4. 事業の実績	<p>●利用回数：(R4)1,799回 (R5)1,897回</p> <p>●利用人数： (R4)27,326人(うち主催事業 444人、社会教育関係団体 15,931人、その他 10,951人) (R5)29,889人(うち主催事業 1,590人、社会教育関係団体 16,997人、その他 11,302人)</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p><b>【成果】</b> 新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し行動制限などが行われなくなったため、サークル活動や講座が平常どおりに行われるようになったことなどから、中央公民館の利用回数は対前年度比98回増(+5.4%)、利用人数は対前年度比2,563人増(+9.4%)となった。</p> <p><b>【課題】</b> 生涯学習事業の推進や地域学習資源の発掘、活用の仕組みづくりを推進するとともに、引き続き、利用者のニーズに合わせた支援を充実させ、中央公民館の利用促進に努めていく。</p>		
6. 内部評価	A	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>新型コロナウイルス感染症による行動制限により、制限されていたものが平常通りに行われるようになり、利用回数・人数も大幅に増加してきたことに安心いたしました。コロナ禍の中でも、職員の皆様が貸館業務をていねいに対応してきた成果であると思います。中央公民館は白石市の社会教育の中心であり、市民に対しての学習機会を提供する場と思いますので、これからも楽しいプログラムの企画など引き続きよろしくお願いたします。</p>		

基本事業(基本方針)	学校教育の充実	担当課	学校給食センター																							
事業名	学校給食運営事業																									
重点施策 (白石市の教育より)	1-(5)学校給食の充実と食育の推進																									
事業の目的・目標	学校給食を通して食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけさせる。																									
1. 令和5年度予算額	277,385千円	2. 令和4年度決算額	270,920千円																							
3. 令和5年度の事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食の充実を図り、安全で安心な給食を提供する。</li> <li>・学校給食残食調査を実施する。</li> <li>・実証実験に伴い夏季・秋季・冬季休業日の一部が登校日となることに伴い給食提供を実施する。</li> </ul>																									
4. 事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒が正しい食事のあり方や望ましい食生活を身に付け、自らの健康管理ができるように「給食一口メモ」や「給食図鑑」の給食指導資料を提供し支援した。</li> <li>・児童・生徒の給食の摂取状況を把握し、今後の献立作成や給食指導の参考資料にするため学校給食残食調査(11/13～11/17)を実施した。</li> </ul>																									
5. 事業の成果・課題等	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「給食一口メモ」は、給食の時間に校内放送で読み上げお知らせしたり、担当が給食時に説明をしている。</li> <li>・「給食図鑑」は、配膳場所等に掲示し子どもたちがいつでも見られるようにしている。</li> <li>・アレルギー対応食の給食を提供しているが、誤食の事故は無かった。</li> </ul> <p>児童生徒数と年間提供食数</p> <table border="0"> <tr> <td>小学校:</td> <td>1,292名</td> <td>241,478食</td> </tr> <tr> <td>中学校:</td> <td>774名</td> <td>136,256食</td> </tr> <tr> <td>幼稚園:</td> <td>30名</td> <td>4,040食</td> </tr> </table> <p>うちアレルギー対応食提供の児童生徒数と年間提供食数</p> <table border="0"> <tr> <td>小学校:</td> <td>6名</td> <td>1,529食</td> </tr> <tr> <td>中学校:</td> <td>2名</td> <td>377食</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・残食調査による残食率〔市内平均〕 ※( )内は令和4年度の数値</li> </ul> <table border="0"> <tr> <td>小学校:</td> <td>主食9.5%、主菜14.5%、副菜17.9%、食缶(汁物)10.6%、牛乳0.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>( 8.6%、 16.0%、 26.5%、 11.2%、 0.7%)</td> </tr> <tr> <td>中学校:</td> <td>主食13.2%、主菜 9.4%、副菜21.0%、食缶(汁物)12.6%、牛乳2.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>( 13.7%、 10.3%、 24.4%、 14.9%、 4.4%)</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和時代の新たな学校の在り方を探るための実証実験」で夏季冬季休業日の一部を授業日に振り替え登校日となったことに伴い給食提供を実施した。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <p>児童生徒が苦手意識を持つ献立についても食材の調理方法や味付け、また、組み合わせる食材を工夫し食べる機会を作ることで、成長に必要な栄養素の適切な摂取量を充足させていくことが肝要なことであると感じています。学校全体での指導や取り組みのみならず、家庭への働き掛けなど連携を深めていきたい。</p>			小学校:	1,292名	241,478食	中学校:	774名	136,256食	幼稚園:	30名	4,040食	小学校:	6名	1,529食	中学校:	2名	377食	小学校:	主食9.5%、主菜14.5%、副菜17.9%、食缶(汁物)10.6%、牛乳0.0%		( 8.6%、 16.0%、 26.5%、 11.2%、 0.7%)	中学校:	主食13.2%、主菜 9.4%、副菜21.0%、食缶(汁物)12.6%、牛乳2.0%		( 13.7%、 10.3%、 24.4%、 14.9%、 4.4%)
小学校:	1,292名	241,478食																								
中学校:	774名	136,256食																								
幼稚園:	30名	4,040食																								
小学校:	6名	1,529食																								
中学校:	2名	377食																								
小学校:	主食9.5%、主菜14.5%、副菜17.9%、食缶(汁物)10.6%、牛乳0.0%																									
	( 8.6%、 16.0%、 26.5%、 11.2%、 0.7%)																									
中学校:	主食13.2%、主菜 9.4%、副菜21.0%、食缶(汁物)12.6%、牛乳2.0%																									
	( 13.7%、 10.3%、 24.4%、 14.9%、 4.4%)																									
6. 内部評価	<b>B</b>	A	目標を上回って達成した																							
		B	目標をほぼ達成した																							
		C	目標をやや下回った																							
		D	目標を下回った																							
7. 外部評価	<p>児童生徒にとって学校給食は楽しみなものです。その給食が安全で安心であることは、何よりも大切なことです。また、アレルギーを持つ児童生徒に対してもアレルギー対応食として提供していただいていることは、学級の中で級友と一緒に食事ができる楽しみを得ることができ、一人一人を大切にされた給食であると感じます。さらには、アレルギー対応食の誤食がないなど、命にも関わることでもあることから、職員等の関係者の皆さんが徹底したマニュアル遵守と注意を払っていただいているお陰と思います。</p> <p>物価高騰の中、限られた予算の中で児童生徒の成長に必要な栄養素の摂取と残食にも注意されて献立がつけられていることに感謝申し上げます。引き続き安全で安心なおいしい給食を子供達が楽しみにしておりますので、今後もよろしくお願ひします。</p>																									

基本事業	社会教育の充実	担当課	図書館
事業名	図書館等利活用事業		
重点施策 (白石市の教育より)	読書活動の推進(1-(5))・図書館サービスの充実(4)		
事業の目的・目標	乳幼児から高齢者まで、すべての市民の生涯学習の場として資料や情報を収集、提供し「市民の役に立つ図書館」の実現に努める。		
1. 令和5年度予算額	31,433千円	2. 令和4年度決算額	34,720千円
3. 令和5年度の事業内容	(1) 各分野の資料を収集、提供するとともに、利用者の視点に立った書架の整備を進めることで、市民の生涯学習活動を支援した。 (2) インターネット技術を活用した電子図書館や予約サービスを提供し、利用者の利便性の向上を図った。 (3) 移動図書館車「こまくさ号」を運行し、学校と地域の読書活動を支援した。 (4) 図書館ボランティアの活動を推進し、市民協働による図書館環境の向上を図った。		
4. 事業の実績	(1) 貸出点数は、一般書が48,787点(-558点)、児童書が45,915点(+1,600点)、視聴覚資料及び雑誌が6,343点(-536点)、合計101,045点(+506点)であり、貸出人数は22,487人(-348人)であった。 (2) インターネット予約サービスの利用者は、予約数896件(-12件)であった。 (3) 電子図書館の利用者は、アクセス数4,352回(+1,151回)、延べ貸出点数3,480点(+825点)であった。 (4) 市内15箇所(-1箇所)のサービスポイントにおいて、5,081点(-206点)の図書を貸出した。また、21箇所(+1箇所)の配本所に6,638点(+288点)の図書を配本した。 (5) 書架整理8人(±0人)、読み聞かせ19人(+5人)、図書館支援5人(-1人)のボランティアに登録いただき、延べ184回(-5回)の活動を行った。		
5. 事業の成果・課題等	<b>【成果】</b> 電子図書館については小学校における朝読書の時間での活用などが定着し、アクセス数、貸出点数ともに大きく実績を伸ばすこととなった。また児童書の貸出点数も伸びていることから、電子図書館の利用により児童の読書への興味・関心が醸成され、実物の本の利用へと繋げることができていると推察される。 <b>【課題】</b> 利用者(貸出者)の延べ数を見ると、中学生・高校生(13~18歳・383人)の値が児童(0~12歳・4,839人)の10分の1以下となっている。学校生活や環境の変化の影響もあると考えられるが、その時の感性でしか得られない読書体験や進路選択の参考資料の提供など、中学生・高校生という多感・多忙な時期に図書館として力添えできることから、中学生・高校生に向けた図書館づくりも行っていく必要がある。		
6. 内部評価	<b>B</b>	A	目標を上回って達成した
B		目標をほぼ達成した	
C		目標をやや下回った	
D		目標を下回った	
7. 外部評価	全国学力・学習状況調査の質問紙の中に「家にある本の冊数」の調査から家庭の社会経済的背景(SES)を調査するものがあり、明らかに家にある本の冊数が多いほど正答率は高く、SESと学力の相関関係があることが分かります。家庭の社会経済的背景は児童生徒様々ですが、公的機関がこの点を補うことができれば良いと思います。また、事業の成果の中に電子図書のアクセス数が伸びているようですが、借り手の便利さで決められるようにどちらも充実させてください。課題に中高生の貸し出し数が低いことが書かれてありましたが、今後、学校と連携を図り相互に情報共有していただき進めていただければと思います。また、中高生だけでなく、幼児期の子を持つ親や一般の方までどのようなニーズがあるのかを掴んでいただき、引き続き魅力ある図書館づくりをお願い致します。		

基本事業	社会教育の充実・教育環境の整備	担当課	図書館
事業名	図書館文化事業		
重点施策 (白石市の教育より)	読書活動の推進(1-(5))・図書館サービスの充実(4)		
事業の目的・目標	幼少期から本に親しむことにより、豊かな心、たくましく生きる力をはぐくみ、成長とともに得られる文化意識の基礎の充実を図る。		
1. 令和5年度予算額	— 千円	2. 令和4年度決算額	— 千円
3. 令和5年度の事業内容	<p>(1) おはなしひろば アテネ絵本コーナーにおいて、読み聞かせボランティアの協力により絵本、紙芝居の読み聞かせ等を行い、子ども読書活動を推進した。</p> <p>(2) えほんであそぼう アテネ絵本コーナーにおいて、読み聞かせボランティアの協力により絵本の読み聞かせとともにテーマに沿った折り紙を折るイベントを開催した。また、大人向けの絵本セラピーを開催し、幅広い年代に向けて読書活動を推進した。</p> <p>(3) 出前読み聞かせ・ブックトーク 保育園、幼稚園及び小学校において、読み聞かせボランティアの協力により読み聞かせ及びブックトーク(あるテーマを立てて子どもたちに何冊かの本を順に紹介し、紹介した本や読書への興味を持たせる活動)を実施し、子どもの読書意欲を高める活動を行った。</p>		
4. 事業の実績	<p>(1) おはなしひろば 開催回数:13回 参加人数:大人 31人 子ども 185人 ボランティア 32人 (-8回) (+6人) (+90人) (+8人)</p> <p>(2) えほんであそぼう 開催回数:6回 参加人数:大人 24人 子ども 20人 ボランティア 6人 (-1回) (-3人) (-6人) (-1人)</p> <p>(3) 出前読み聞かせ・ブックトーク 開催回数:52回 参加人数:大人 136人 子ども 1,112人 ボランティア 101人 (+2回) (-10人) (-38人) (+12人)</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 「おはなしひろば」はボランティアの都合により開催回数が減ったものの第一児童館の子どもたちに好評であり、毎回積極的に参加してくれていることから、参加人数の実績を伸ばす要因となった。また小学校高学年向けに「ブックトーク」を開催し、読み聞かせによる受動的な読書ではない、能動的な読書へのきっかけづくりを行うことができた。</p> <p>【課題】 読み聞かせボランティアの登録人数は前年度から5人増えたものの、実際に読み聞かせを行う方が減り、少ない人数で開催回数をこなすことになった。また「ブックトーク」を行うことができるボランティアも少人数であることから、今後も新たなボランティアの獲得と育成を行う取り組みを実施していく必要がある。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>幼少期から本に親しむことは大切なことだと感じます。生後半年頃から絵本に興味を持つ頃で、読み聞かせを充実させていくことは時代を担う人づくりにもなるものと思います。そのことを経験から感じ取っている多くのボランティアの皆さんに感謝申し上げます。また、これだけ電子図書等のICTが活用されている時代ですので、幼稚園や保育所等で必要あれば電子図書の絵本などを大画面で読み聞かせすることも良いのかと思いました。ボランティアの方々のお思いをくみ取っていただき、引き続き充実させてください。教育のはじめの一步と認識するとともに、今後の国語力にも繋がっていくものと思います。本を読むことは、生涯学習の一つにもなり得ることだと思いますので、今後とも継続していただければと思います。</p>		